

1:22 あなたがたは真理に従うことによって、たましいを清め、偽りのない兄弟愛を抱くようになったのですから、きよい心で互いに熱く愛し合いなさい。

1:23 あなたがたが新しく生まれたのは、朽ちる種からではなく朽ちない種からであり、生きた、いつまでも残る、神のことばによるのです。

1:24 「人はみな草のよう。その栄えはみな草の花のようだ。草はしおれ、花は散る。

1:25 しかし、主のことばは永遠に立つ」とあるからです。これが、あなたがたに福音として宣べ伝えられたことばです。

2:1 ですからあなたがたは、すべての悪意、すべての偽り、偽善やねたみ、すべての悪口を捨てて、

2:2 生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、霊の乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。

2:3 あなたがたは、主がいつくしみ深い方であることを、確かに味わいました。

2:4 主のもとに来なさい。主は、人には捨てられたが神には選ばれた、尊い生ける石です。

2:5 あなたがた自身も生ける石として霊の家に築き上げられ、神に喜ばれる霊のいけにえをイエス・キリストを通して献げる、聖なる祭司となります。

2:6 聖書にこう書いてあるからです。「見よ、わたしはシオンに、選ばれた石、尊い要石を据える。この方に信頼する者は決して失望させられることがない。」

2:7 したがってこの石は、信じているあなたがたには尊いものですが、信じていない人々

にとっては、「家を建てる者たちが捨てた石、それが要の石となった」のであり、

2:8 それは「つまずきの石、妨げの岩」なのです。彼らがつまずくのは、みことばに従わないからであり、また、そうなるように定められていたのです。

2:9 しかし、あなたがたは選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神のものとされた民です。それは、あなたがたを闇の中から、ご自分の驚くべき光の中に召してくださった方の栄誉を、あなたがたが告げ知らせるためです。

2:10 あなたがたは以前は神の民ではなかったのに、今は神の民であり、あわれみを受けたことがなかったのに、今はあわれみを受けています。

救われた者の生き方が書かれてあります。それはしなければならぬ道徳ではなく、「買い出し」して下さった「キリストの、尊い血」によるもので、「神のことばによる」ものです。「新しく生まれた」者に、新しい生き方ができるのです。クリスチャンなら誰もが「聖なるもの」とされたいと願うでしょう。それができないのは自分の力でやろうとするからです。またはどこか不健全であるのは、自分の力でできたので、それを誇ったり人をさばいたりするからです。神様の恵みの力によって、新しくさせていただきましょう。

正しいものになろう、聖いものになろう、高い信仰のレベルに到達しようとするのは良いことのように見えますが、そこに落とし穴もあります。自分の力でやろうとすると、偽善が生まれます。すなわち自分に都合な基準や分野で見ようとするのです。または、自分より前を行っているように見える人にねたみを感じるのです。競争心が生まれてもくろんでしよう。

大切なことは、「生まれたばかりの乳飲み子

のように、純粋な、みことばの乳を慕い求め」ということです。これができれば、本当の成長ができます。ですから「主のもと」来ることが大切なのです。この主は、決して人から評価されることを願った方ではありません。むしろ「つまずきの石、妨げの岩。」でした。しかし、信仰のある者にとっては、「決して失望させられることのない」すばらしいお方です。

そして信仰のある私たちは「選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民」です。祭司は神様の前に人をとりなすのが働きですから、その祭司である私たちは、主の前に人を連れてきましょう。今の状況の中で、どのように伝道につながるができるか、それを考えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

